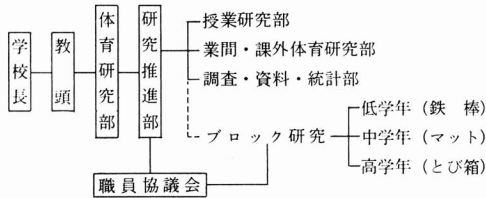


4. 研究組織



5. 研究の概要

(1) 実態調査のし方

- 事前調査や観察により、実態をは握した。
- ア 学年に応じた体育面に関する家庭調査をする。
- イ 家庭訪問の際、更にくわしく内容を聞き、児童の実態をは握する。
- ウ 休憩時や業間時の遊び方や行動範囲、交友関係をとらえる。
- エ 前学年までの題材についての技能の実態をとらえる。(体力・体格カード、実技や話し合いで)
- オ 既習の程度をとらえる。(話し合いで)

(2) 原因分析のし方

原因分析は、非常に困難であったが、よりどころとなる文献でじゅう分に研究し、ブロック研究会や職員協議会などに講師を招へいしたりして、分析のための研修をかさねた。

(3) 検証仮説の設定のし方

- ア 第一次の学習をする。
  - (ア) できない子を確認する。
    - 体力面、技能面の原因をとらえる。(観察で)
    - 精神面の原因をとらえる。(話し合いで)
- イ 個別指導の方法を考える。
  - (ア) 技能のポイントと本人の欠点を明確にし、関連づけをする。
  - (イ) 学習の順序を決める。(段階指導)
  - (ウ) 補助・補強運動を考える。
  - (エ) 施設・用具を工夫する。
  - (オ) 補助のし方を工夫する。
  - (カ) 助言のし方、ほめことば、はげましのことばを考える。
  - (キ) 課題学習の内容を明確にし、どのような方法で行わせるか決める。

(4) 個別指導検証カードの形式とまとめ方

ア 形式

年	器械運動領域	とマ鉄	題材名	
氏名		性別	男女	生年月日 . . . 知能SS
家庭での体育的な問題点	※同じ量が、いろいろな題材でリストアップされる場合は、この項は第1回目だけ記入し、他は記入しない。			
学校での遊び方や行動範囲交友関係	※前記に同じ			

既習状況	※どの程度まで学習し、どの程度まで、できるようになっているか記入する。		
第1次学習によるできない原因の診断	体力面		
	技能面	※できるだけ、具体的に。	
	精神面		
個別指導の計画	※●個別指導の方法から、必要と思われる何項目かをとりあげて、具体的に計画を立てる。 ●個人ごとに見る。		
検証	段階	指導の中心	結果
	第1次	※個人ごとになる。 ●具体的に、段階的に。	●指導の方法、助言のしかなどの実際とその結果や反省
学習指導後の反省	※指導上の留意点を中心に反省をまとめる。		

イ まとめ方

- (ア) できない子の人数分だけのカードを作成する。(4名なら4枚)
- (イ) 各学級ごとに指導の成功、失敗を明確に且つ簡潔に文章化し、3クラスがその題材を終了した時に、学年のまとめをする。
- (ウ) <できない子の指導の工夫と指導上の留意点>の作成

年	器械運動領域	とマ鉄	題材名		
次	学習内容・活動	時(分)	指導の工夫	指導の結果(成功・失敗)	指導上の留意点
1					
2					

- 各学級1枚にまとめ、更にそれをまとめて学年1枚にする。
  - ブロック研究会の折りには、各学年の指導の工夫について話し合い、効果的な学習ができるようにする。
  - 題材ごとに、指導上の留意点を作成する。
- (5) 段階指導を配慮した、題材の指導計画表の作成

ア ねらい

器械運動の題材(53種目)について、運動の特性、技能などの面から分析し、段階的に指導できるように、関連図形式の指導計画を作成し、指導の効率を高める。

イ 方針

題材目標の具体化、題材のしくみ、関連を明確にし、活用しやすい指導計画を作成する。

ウ 作成の手順・方法

- (ア) 題材の目標を分析し、1時間ごとの学習のねらいである下位目標を決定する。
- (イ) 下位目標の関連図を作成する。
- (ウ) 下位目標を達成するための学習要素、前提条件を記入する。
- (エ) 前提条件の記入に関しては、体力面、技能面、精神面を中心に記入する。
- (オ) 本校で作成した「器械運動の到達目標と評価の観点」の資料を根拠として作成する。
- (カ) 下位目標、学習要素、前提条件をそれぞれ構造化する。